

令和元年度に係る業務の実績に関する評価結果  
国立大学法人群馬大学

1 全体評価

群馬大学は、北関東を代表する総合大学として、知の探求、伝承、実証の拠点として、次世代を担う豊かな教養と高度な専門性を持った人材を育成すること、先端的かつ世界水準の学術研究を推進すること、そして、これらを通して地域社会から世界にまで開かれた大学として国際社会に貢献することを基本理念に掲げている。第3期中期目標期間においては、基礎知識に裏打ちされた深い専門性を有し、地域社会での活動及び国際交流活動を積極的に推進できる人材を養成することや、多様な学術領域での独創的な研究を国内外の大学・研究機関と連携して進め、国際的な研究推進・人材育成のネットワークを構築し、研究拠点を形成すること等を目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、宇都宮大学との連携による共同教育学部の設置を進めるなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和元年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- ウーロンゴン大学が開発した線質測定器の読み出し回路を、重粒子線測定に最適なダイナミックレンジが得られるように、理工学府と共同で改良するとともに、アルファ線源を用いた校正を行うための真空チェンバーを理工学府に整備しており、ウーロンゴン大学の学生14名とスタッフ2名が来学し、施設見学と研究交流会を実施している。（ユニット「重粒子線治療の教育・研究の推進」に関する取組）
- 海外ラボラトリー・カロリンスカ研究所が中心となり、人間の健康や病気における、環境、食・生活習慣などの網羅的暴露の影響を捉えることを目的とした新たな研究領域「エクスポゾーム」を焦点にエクスポゾームシンポジウム（令和元年11月12日昭和キャンパス）を開催しており、米国、フィンランド、スウェーデンから7名、国内2名の世界で活躍する研究者を招聘しており50名ほどの研究者及び学生が集まり活発な意見交換が行われている。（ユニット「未来先端研究機構における世界水準の研究力の強化」に関する取組）

## 2 項目別評価

## &lt;評価結果の概況&gt;

|                   | 特筆 | 一定の<br>注目事項 | 順調 | おおむね<br>順調 | 遅れ | 重大な<br>改善事項 |
|-------------------|----|-------------|----|------------|----|-------------|
| (1) 業務運営の改善及び効率化  | ○  |             |    |            |    |             |
| (2) 財務内容の改善       |    |             | ○  |            |    |             |
| (3) 自己点検・評価及び情報提供 |    |             | ○  |            |    |             |
| (4) その他業務運営       |    |             | ○  |            |    |             |

## I. 業務運営・財務内容等の状況

## (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

## 【評定】中期計画の達成に向けて特筆すべき状況がある

(理由) 年度計画の記載10事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、特筆すべき点があること等を総合的に勘案したことによる。

令和元年度の実績のうち、下記の事項について特筆される。

## ○ 両大学長のリーダーシップによる全国初の共同教育学部の実現

約15年先の教員需要の減少を見据え、地域の義務教育課程に責任をもって当たる体制の構築や教員の資質能力向上への要請に応えるため、宇都宮大学と群馬大学の両大学の学長をトップとした協議会及び理事をトップとしたワーキンググループを設置し、教育学部の連携・協力に関する協議を進めた結果、令和2年4月から共同教育学部を全国初として設置することとしており、両大学の連携・協働によるスケールメリットを活かした質の高い教員養成機能の強化及び地域の義務教育課程、教員研修体制に対して責任を持つ組織体制・実施体制を安定して維持していくことを実現している。

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

### ○ クロスアポイントを活用した学長特別補佐の配置

大阪府立大学とのクロスアポイントメント契約により、管理会計、経営学を専門とする教員（准教授）を企画戦略室経営戦略担当の学長特別補佐として採用することで、経営の効率化、効果的な計画・予算の策定に向けた検討を進めるとともに、当該教員を講師とした経営戦略セミナーを5回開催し、「大学経営における経営管理」、「PDCAをまわすための組織作り」といった組織運営から、「効果的な計画・予算作成」、「効果検証入門」、「エビデンスベースの考え方：大学における測定内容について」といった業務の効率化・経営力強化に係る手法について研修を行い、経営主体である役員を始めとして、管理職、中堅職員、一般職員等の教職員の知識習得・行動促進に繋がっている。

令和元年度の実績のうち、下記の事項について課題がある。

### ○ 入学者選抜試験における出題ミス

令和2年度医学部推薦入試における出題ミスが発生したことにより追加合格の措置を実施していることから、チェック体制の見直し等、再発防止に向けた組織的な取組を引き続き実施することが望まれる。

## (2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

### 【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載7事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

## (3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

### 【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載4事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

---

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守

**【評定】** 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載13事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

## Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

### ○ ウイルスベクター開発研究センターの設置

学内の強みのみに留まらず、国内外の先端研究拠点として発展させるため、未来先端研究機構内にウイルスベクター開発研究センターを令和元年10月に設置しており、国家課題対応型研究開発推進事業「革新的技術による脳機能ネットワークの全容解明プロジェクト」(AMED)等の外部資金を獲得するなど、今後、ウイルスベクターに関する様々な臓器の細胞種特異的に外来遺伝子を発現させる技術、ゲノム・エピゲノム編集を可能にする技術や血液脳関門を効率的に透過させる技術などの開発を進め、疾患の病態解明や遺伝子治療技術の開発に資する先端研究を展開することとしている。

### 附属病院関係

(教育・研究面)

#### ○ 災害時業務調整担当職員 (GLAST隊員) の養成

大規模災害時に医療以外の全てを担当する業務調整 (ロジスティクス) 担当職員の存在が必要不可欠であることから、災害時に業務調整担当職員として、積極的に活躍できる職員を養成するため、群馬大学災害時業務調整担当職員養成プログラム「GLAST隊員」養成研修 (令和元年度修了者15名) を実施している。

(診療面)

#### ○ 安全・納得・信頼の医療を提供するための取組

専任の医師ゼネラルリスクマネージャー (GRM) を新たに配置したほか、患者のカルテ共有システムを平成31年4月に開始するとともに、外科医の手術手技向上や外科医を志す者の育成のための「群馬手術手技研修センター(篤志検体を用いた手術手技研修所)」の開設や、全職員を対象とした医療安全と医療のパフォーマンスを強化するチームステップ研修の実施など、医療安全管理体制の強化や医療の質改善を行っている。

(運営面)

#### ○ 医療従事者の負担軽減に向けた取組

医師負担軽減の取り組みとして、ドクターズアシスタントセンターを設置し、医師事務作業補助者を令和元年度は延べ9名採用し、医師事務作業補助技能認定試験合格者を診療科に試験配置するなど、医療従事者の働き方改革を推進している。